

ビギナー発表コミュニティ

第1回～6回の振り返り

学会発表を行う意義

皆さんは、「なぜ学会発表をする必要があるのか…」と思ったことはありませんか？

勉強のため、キャリアのため、環境の中でする流れになったため、いろいろなイメージや考えがあると思います。その中でも学会長が考える1番の意義は、レジュメ作成や発表を通して**自身の介入の振り返りを行い改善すること、発表を通じて新たな学びを得ること**です。

学会発表を行う意義

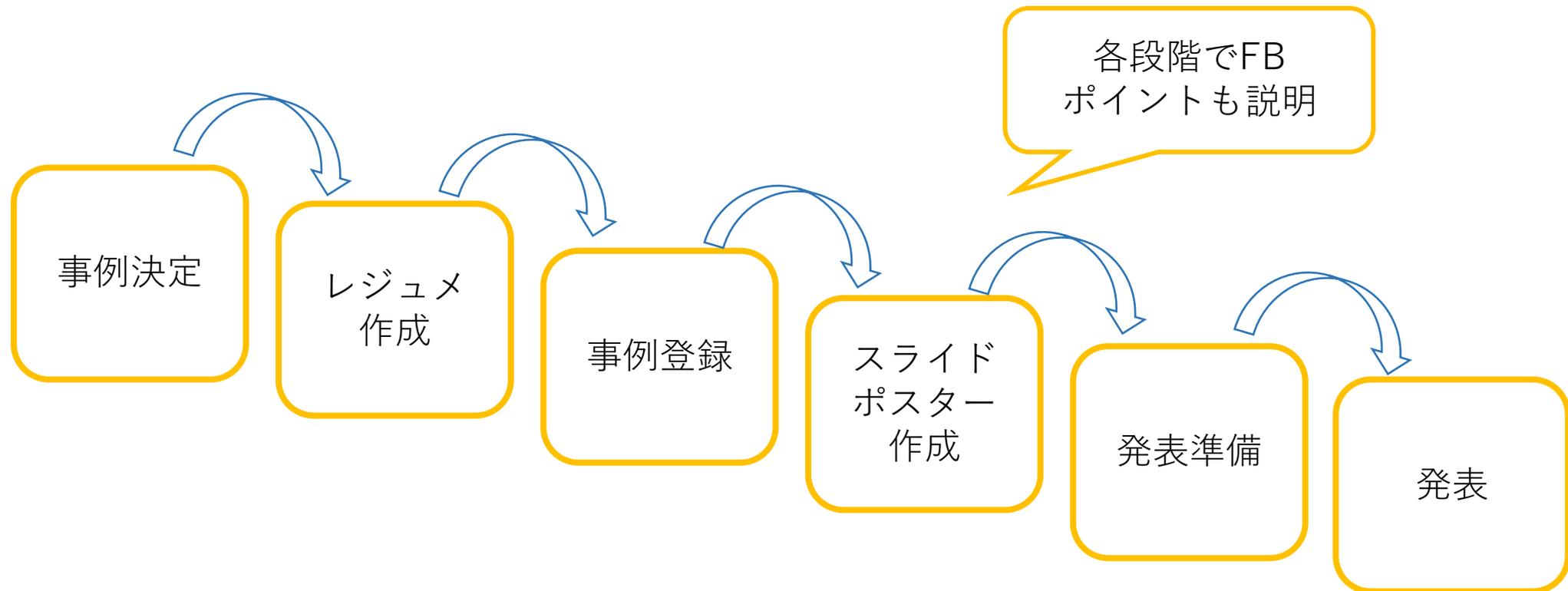
今回は、「発表したいけどどうしたら良いのか」という人のために、そして今回発表出来なくても現在の事例の振り返をするために、誰でも悩みの共有ができる場を作るために、このような学会長の強い気持ちからこのコミュニティが作られました。

第1回、第2回に参加出来た方も出来なかった方も、それぞれの回を振り返りその中で挙げたポイントを確認して欲しいと思います。

今後、ぜひ学会発表や新たな学びに繋がられるよう、このコミュニティを上手く活用していただけると嬉しいです！

コミュニティについて

- このコミュニティは、まず1つの事例に対して学会長が公開FBを行います。
- レジューメ作成から発表までの各段階で、どのようにしたらいいのかをポイントにまとめながら、質疑応答などを通じてみんなで学ぶという進め方で行っています。



第1回 事例提示と方向性の決定

初回ということで、まずは事例が提示されました。
これから段階的にレジュメにまとめていくことになります。

まとめる上で方向性決定のポイントは

Point 1) 1つの事例でもまとめる視点はたくさんある！

視点とは…？

例えば、右片麻痺の場合①上肢/歩行機能②生活機能③ツールの使用など、複数の視点に分けることができます。

ここの点数が上がった、ツールを使用して介入がスムーズに運んだ、など一番伝えたい部分を深掘していく方法があるということです。

－ 今後の流れ

今回は事例提示でしたが、次回からはレジュメ作成に移ります。

レジュメ作成で最初に重要な点は

Point II) 得た情報や伝えたいことは全て書くこと！

初めからA4サイズ1枚にまとめる必要はない。まずは、事例についての情報や介入の流れをなどを書けるだけ書き出す。

いきなり綺麗にまとめようとする、後々の情報不足や伝えたいことの軸からズレてしまうことがあります。文章量が多くても、そこから必要な情報を残していく方が伝えたいことからズレにくくなります。

※情報の整理方法は第2回のまとめに載せています！

第1回 Q&A

Q：急性期のため、ケースと短期間の関りが多くまとめにくい

A：短期でも目標を持って関わっているので小さな変化でもよい。
周囲との関わりやMTDLPの視点などでまとめられそう。

Q：今回使用しているADOC 2 をなぜ選択したのか

A：目標設定からプログラム立案までスムーズに行いやすいため

Q：レジュメを作る際に評価の不備に気づくことがある

A：隅から隅まで評価することは難しい。観察で見たこと感じたことをまとめることで補える部分もあるはず。

第2回 カテゴリー別け（情報整理）

第1回の中で「得た情報や伝えたいことは全て書く！」というポイントがありました。この時点では、事例について得ている情報や伝えたい内容が羅列されている状態です。それを、今回からは少しずつ情報整理していく段階に移ります。

PointIII) カテゴリー化する

書き出した情報を、評価、経過、結果、考察にカテゴリー化する。

そうすると、情報を上手くまとめていくための材料がカテゴリー別に揃っていきます。

次第に「この情報が多い」「この事例のここがポイントだな」と、伝えたいことをどのような方向でまとめるかの道標が明確になってきます。

※カテゴリー化、については次回以降も引き続き話していく予定です。

第2回 Q & A

Q：発表は上手く進んだ事例が良いというイメージがある

A：発表の目的は、今後の臨床や研究に繋がる知見を得ること。上手くいった事例、そうでない事例のどちらも振り返ることに意味がある。

Q：今から事例を決める上でのポイントはあるか？

A：自分が担当している患者さん、利用者さんの評価～介入結果をひと通り書き出してみる。振り返りにもなり、書き出すうちに「このケースはすらすら書ける」「この事例の介入は特徴的だな」と思う事例が出てくるかも？

Q：重度障害がある事例はどのように発表したらよいか？

A：その対象者だけでなく、周囲の環境やチームの動きにも焦点を当てると良い

第3回 ストーリーを考える

ここまでは、

- 1, 得た情報や伝えたいことはレジюмеに全て書く
- 2, 書き出した内容をカテゴリー化する

という流れで進めてきました。

今回は、**ストーリーを考える**という段階に移ります。

ストーリー？と思うかもしれませんが、

引っ掛かっていたことにどう対応したか、どのように解決したかを時系列的に振り返ると、現状→危機(課題)→解決という発表者の思考プロセスとしてストーリー化出来るということです。

第3回 ストーリーを考える

今回の事例をストーリーに当てはめると

- 現状：ipadアプリケーションを使用した介入の実施
- 危機(課題)：目標設定が上手くいっていない？
- 解決：ipadアプリケーションの使用で目標再設定とプログラム立案が円滑となります。

現状は、今回までに何度も出てきた「伝えたいこと」です。

危機(課題)と解決は、その具体的な内容になります。

ストーリーが定まることで、発表したいことやレジュメ作成において軸からズレにくくなるんです。

第3回 Q&A

Q：一つの事例で、視点を変えて別の学会で発表することは可能か

A：同じ内容の使い回しはNG。切り取るポイントを変え、異なる結果や考察が得られれば問題ない。

Q：ポスターや口述発表のポイントはあるか

A：ポスターやスライド作成に時間を割き過ぎない。スライドとポスターはあくまでも補足資料。プレゼンは自身の言葉が一番重要なので、話す内容の添削と練習がとても重要。

Q：口述発表時のスライドの作り方のポイントはあるか

A：作成順をレジュメ→スライド→発表原稿ではなく、レジュメ→発表原稿→スライド作成の順にするとスライドに余計な内容が入りにくい

※合う合わないはあるので一つの参考です。

第4回 文献と照らし合わせる

ここまでの流れ

- ①アウトプットする
- ②カテゴリー分けする
- ③ストーリーを考える
- ④文献と照らし合わせる ← 今回の内容

現状では「自分の言いたいこと」も概ね固まってきている。
次は「**文献と照らし合わせる**」という段階へ移行。

目的は？

「自分が伝えたいこと」は固まってきている。
しかし、それだけでは業界の発展には寄与できない。
自分の経験の話だけになってしまうため、知識として積み上がりにくくなる。

そのため、**先人の知恵（文献）と比較**して自分の考えがどのような立ち位置なのかを見極める。

文献の使い方

調べた文献が自分の意見を否定するものであったら？
自分はどのようにして違う結果になったのかを考察する。

→必ずしも正と誤ではない。

世間一般の認識と自分の**認識の差を文献から学び**、
【はじめに】や【考察】を組み立てていく。

ここまでで、レジュメを作るための材料は一通り揃っている。
次は情報を削り、スリム化を図っていく。

第5回 文章を削る（整える）

前回までの流れ

- ①持っている情報のアウトプット
- ②アウトプットした情報のカテゴリー分け
- ③伝えたいことをストーリーとして考える
- ④自身の認識を文献と照らし合わせる

今回の内容

- ⑤文章を削る（整える）

演題登録に合わせて文字数や内容を整えていく

第5回 文章を削る（整える）

前回までは「自分の考えをまとめる」ことに集中。
文章自体の修正や文字数を削る工程はほぼ行っていない。

今回したことは、

- 1, **文章（内容）の優先順位付け**
- 2, **伝えたいことを主軸として内容を取捨選択。**

※この段階で伝えたいことが明確になっていると、文章を整える
難易度が下がる！

第5回 文章を削る（整える）

でも内容を整えていくと…

→内容そのものや記載のしかたが不十分と感ずること。

☆Point

- ・ 評価や結果と考察の結びつき
- ・ 言いたいことを伝えるための情報に不足がないか
- ・ 自分の意図は伝わっている？

このような点を意識することで、より洗練されていく。

第5回 Q&A

Q：削る情報と残す情報を見極めるポイントは？

A：明確にこれ！という基準を定めるのは難しい。

「伝えたいこと」に必要な情報か、全体の流れを見ておかしくないか、という部分が大切になる。

Q：内容の削り方にポイントはあるか。

A：削る前の原本をコピーして、そこから削っていく。

削った内容は別の場所に残しておき、何を削ったか分かるようにしておく。

一通り整えた後、削った情報から必要な情報を再度レジюмеに入れる。

一度整えたレジюмеには触らず、新たにコピーして再度情報を整えていく。

→複数のレジюмеから選択する方法も？！

第6回 タイトルを決める

前回までの流れ

- ①持っている情報のアウトプット
- ②アウトプットした情報のカテゴリー分け
- ③伝えたいことをストーリーとして考える
- ④自身の認識を文献と照らし合わせる
- ⑤文章を削る（整える） ← レジユメの完成

最期に、⑥タイトルの決定

第6回 タイトルを決める

前回まででレジユメの内容はまとまる。
タイトルを決めて、いよいよ全体が完成。

タイトルを決めると言っても、これが意外と難しい。
シンプル過ぎたり、長くて複雑にならないように…

ここで重要なのは

- ・ **タイトルを見てレジユメの内容が伝わるのか？！**

第6回 タイトルを決める

そのためには…

レジュメの要点が入っていると良い



5W1Hでキーワードを出し、それを組み合わせる方法もある

例) Who 脳卒中患者、不安の強い事例

What 上肢機能障害に対する、精神的な不安軽減のために

When 急性期、回復期、生活期

Where 回復期病棟において、地域で暮らす

Why 活動量に焦点を当てて、目標共有に焦点をあてた

How ロボットを用いた介入、アプリを用いた関り

これを組み合わせてタイトルにしていく。

第6回 タイトルを決める

例)

「上肢機能障害のある急性期脳卒中患者の活動量に焦点を当てた
ロボット療法の導入」

「地域で暮らす不安の強い事例に目標共有を図るためにアプリを
用いた目標設定を行った事例」

修正は必要だが、必要なワードは入れることが出来ている。

第6回 タイトルを決める

要点となるキーワードを全て入れる必要は無い

→ **キーワードを組み合わせる**ことで、どの情報が足りていないかという点は分かりやすくなる。

最終的には…

レジュメをまとめる中で何度も言った、「**自分の伝えたいこと**」がタイトルを通じても明確になっているかが重要！

第6回 Q&A

Q：文献が上手く探せない時は？文献は新しい方がより良い？

A：新しいに越したことはないが、古いからといって信頼性のないものではない。新しい方がエビデンスレベルの高いものがある。

Q：タイトルで興味を引くものはダメか？

A：ダメということはない。しかしタイトルからイメージされる内容との乖離が大きいと、内容を深める質疑応答が出来なくなる可能性もある。

全6回のまとめ

全6回でレジュメ作成の流れを説明してきたが、
方法はこれだけではない。

今回の流れを活用してまとめてみるのも良い
そこから自分のやりやすい方法を見つけてみて！